

戦国時代へタイムスリップ!

常陸大宮の中世城郭と歴史的景観を学ぶ展示と関連イベント開催!

当市と茨城大学は地域連携協定締結により「森を活かした町づくり」の一環として平成18年から市内の中世城郭の調査を進めてきました。茨城大学人文学部の高橋修教授と学生の皆さんの御指導をいただき、その成果を、特別展・シンポジウム・ヒストリーツアーの3事業として開催しました。

特別展

「館へたて」と宿へしゆくの中世
—常陸大宮の城跡とその周辺—

10月10日から11月23日まで開催された特別展では、市内の主な城跡と城跡に関連する文化財を展示しました。調査の過程で20カ所以上の城を確認し、このうち代表的な城跡について、現在の地形や地名、地元の方への聞き取り、そしてわずかに残る文献史料などから当時の城の姿を復元することを試みました。今から500年以上も前に遡る戦国時代やそれ以前の歴史となると、残されているものが大変少なく、その歴史を把握するのが大変困難でした。



しかし今回、5社の神社から初公開8点を含む20点の中世の棟札や佐竹氏の一族の宇留野氏が日向神社に奉納したと伝わる軍配など、市内に

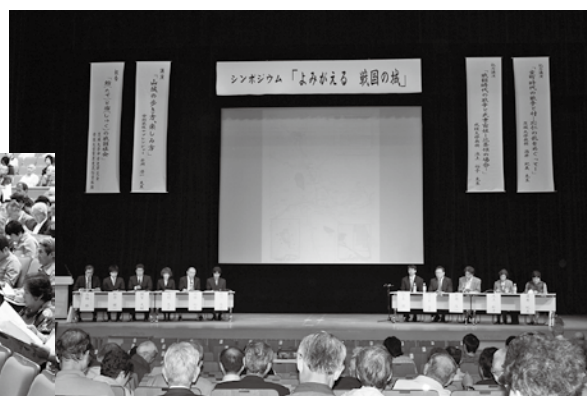


ゆかりの深い文化財60点余を展示することができました。これらは当市の中世史の空白を埋める貴重な資料として注目されます。期間中、市内外から約1,100人の方に御来館いただきました。

シンポジウム

「よみがえる 戦国の城」

11月1日、文化センターロゼホールにおいてシンポジウムが開催されました。午前中、茨城大学教授酒井紀美氏による「室町時代の戦争と村—応仁の乱をめぐる—」と成蹊大学教授池上裕子氏による「戦国時代の戦争と武士・百姓—北条領の場合—」という室町、戦国時代の社会と戦争についての2つの講演をいただき、午後からは、関東地方を中心に各地の中世城郭を調査し、HPで



紹介している「常総戦隊やブレンジャー」のメンバーである余湖浩一氏から「山城の歩き方、楽しみ方」という題で、実際の画像を見ながら、城歩きについての楽しいお話をいただきました。その後、茨城大学中世史研究会、歴史民俗資料館による市内の6カ所の城跡（高部館・河内館・山方城・小瀬館・長倉城・部垂城）の調査報告がありました。来場者の皆さんも身近な地域の城跡の報告に熱心に聞き入っていました。続いて、

大正大学准教授の佐々木倫朗氏、東京工業専門学校非常勤講師の今泉徹氏よりコメントをいただき、来場者からの質問への回答を行い、時間が足りなくなるほどの盛況のうちに閉会しました。350人もの方に御来場いただきました。



▲茨城大学酒井紀美教授



▲成蹊大学池上裕子教授

ヒストリーツアー

〈部垂の乱の舞台を行く、山城のさと・高部〉を開催しました！

特別展関連イベントとして、城跡や戦国時代の史跡を歩くツアーを2回にわたり開催しました。

1回目は「部垂の乱の舞台を行く」と題して、10月18日に行われ、佐竹氏の内乱「部垂の乱」の舞台となった部垂城（現大宮小学校）やその土塁の一部が残る松吟寺、甲神社、遺構の状態の良い宇留野城、前小屋城を歩いて見学しました。



第2回目は「山城のさと 高部」と題して11月15日に行われ、市内を代表する山城として素晴らしい遺構を残す高部館（美和地域）や古い面影を残す高部宿、市内最古の棟札を所蔵する高部氏の氏神諏訪神社などを見学しました。高部館は山城として整備されていないため、茨城大学



の学生の皆さんに協力していただき登城道を整備しました。しかし、さすがは山城、防御のための大規模な堀や土塁がよく保存されているため、登破するのは容易ではありません。往復1時間以上かかりましたが、参加者の皆さんは最後まで登りきり、戦国の山城を満喫しました。

企画展で常陸大宮市の

新しい「日本一」を公開

「戦国の城」でにぎわった資料館では、引き続き企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」を開催しています。これは、2006年1月に県内考古学研究者有志によつて学術調査された、市内泉坂下遺跡の遺物が常陸大宮市に移管されるのを記念して開かれたものです。

市内大宮地域泉にある泉坂下遺跡は、縄文時代や弥生時代の遺物が出土することによって知られていましたが、今回の調査によつて、全国でも事例の少ない弥生時代中期の「再葬墓」とよばれる墓が確認されました。

「再葬墓」とは、死者を一時埋葬するなどして骨化させ、後に掘り起こして洗骨や焼骨などを施し再び埋葬するもので、当地域の再葬墓は、改葬の際に骨をつぼに入れ、ひとつの穴に複数のつぼを一緒に納めるのが特徴となっています。

これらのつぼの中には、まれに人

面の付いた土器が含まれており、今回の調査でも発見されました。これは、県立歴史館が調査した市内の小野天神前遺跡以来、県内では実に30年ぶりの出来事であり、研究者を驚愕させ、新聞をにぎわせました。しかも、整理作業が進むにつれ、土器全体がよく残っている人面付土器が稀少である上に、現在東京国立博物館に収蔵されている筑西市女方遺跡出土の人面付土器を超える、日本最大のものであることも判明しました。



▲再葬墓には1つの穴に複数のつぼが入っています

これらは、12月15日から常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館で開催されている企画展において2月7日まで展示されます。

新しい「日本一」を是非ご覧ください。

※休館日

月曜・12月29日～1月3日